

東邦大学医療センター大森病院臨床研修プログラム

大森・選択専攻科目

放射線科（2～9ヶ月）

1 目的と特徴G I O

画像診断の基本と適切な画像検査の選択法を修得する。
放射線治療の適応と他治療との相違を修得する。

2 プログラム管理運営体制

放射線医学講座 臨床研修委員会

3 教育課程

3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻での研修期間は2～9ヶ月である。

東邦大学医療センター大森病院放射線科に配置される。指導医の下で放射線診断・治療を担当し、画像診断の基礎・適切な画像診断法の選択・オーダーの基本を修得する。放射線治療に関しては、基本的な知識を習得し、癌治療における放射線治療の適応・副作用、およびその対策、実際の治療計画の方法を理解する。

3-2 到達目標

3-2-1 行動目標 SB0

<1～2ヶ月間>

- 1) 画像診断における利益、不利益や画像の成り立ちの観点から、適切な検査法を挙げることができる。
- 2) 検査の前処置や禁忌例を患者の状態に応じて選択することができる。
- 3) 鑑別診断に必要な検査を挙げることができる。
- 4) 放射線治療の適応、副作用、およびその対策を理解し、治療計画、診察を行うことができる。

<4～6ヶ月間>

- 1) 画像診断における利益、不利益や画像の成り立ちの観点から、適切な検査法を挙げることができる。
- 2) 検査の前処置や禁忌例を患者の状態に応じて選択することができる。
- 3) 鑑別診断に必要な検査を挙げることができる。
- 4) 放射線治療の適応、副作用、およびその対策を理解し、治療計画、診察を行うことができる。

3-2-2 経験目標SBO+LS

3-2-2-A 経験すべき検査項目

<1~2ヶ月間>

- 1 一般撮影
- 2 造影検査
- 3 X線 CT
- 4 MRI
- 5 血管造影
- 6 核医学検査
- 7 放射線治療

<4~6ヶ月間>

- 1 一般撮影 (特殊撮影を含む)
- 2 造影検査 (消化管、尿路造影)
- 3 X線 CT
- 4 MRI (特殊撮像を含む)
- 5 血管造影
- 6 核医学検査 (検査の適応、評価法、読影)
- 7 放射線治療 (治療計画、線量分布)

3-2-2-B 経験すべき画像の読影ポイントおよび放射線治療計画

- 1 画像の異常部位を指摘し、異常所見を述べることができる。
- 2 画像所見から診断・鑑別診断を挙げ、鑑別診断に必要な検査を挙げることができる。
- 3 画像診断報告書を指導医の下に作成できる。
- 4 造影検査の適応・禁忌・注意点・前処置を挙げるができる。
- 5 放射線治療の適応の判断・照射法を選択できる。

3-2-3 評価基準

<1~2ヶ月間>

- 1 画像検査報告書 (単純X線写真、CT、MRI) 作成 50件以上
- 2 造影検査 10件以上
- 3 教育講習 (30分~1時間) 3回以上出席
- 4 治療計画は簡単な例で1~2例実施し、治療中の診療を行う

<4ヶ月間>

- 1 画像検査報告書 (単純X線写真、CT、MRI、核医学) 作成 150件以上
- 2 造影検査 50件以上
- 3 教育講習 (30分~1時間) 5回以上出席
- 4 治療計画は比較的簡単な例で3~4例実施し、治療中の診療を行う

<6ヶ月間>

- 1 画像検査報告書 (単純X線写真、CT、MRI、核医学) 作成 500件以上

- | |
|-----------------------------------|
| 2 造影検査 100件以上 |
| 3 教育講習（30分～1時間） 10回以上出席 |
| 4 治療計画は比較的簡単な例で5～10例実施し、治療中の診察を行う |

3-3 勤務時間

研修期間中の勤務時間・休暇・当直に関しては、東邦大学医療センター大森病院の規定に従うが、勤務時間は、原則的に午前9時から午後5時である。
しかし、勉強会・症例検討会・講演会などは、勤務時間外にも行われる。

3-4 教育行事

- | |
|------------|
| 1 抄読会 |
| 2 症例検討会 など |

3-5 指導体制

本プログラムの最終的な指導責任は、東邦大学医療センター大森病院放射線科の指導責任者にある。
全般の指導体制は放射線科医師による。

4 研修医個別評価

口頭試問（画像の読影）および筆記試験で行う